

請願第 28号

平成28年10月 7日

川崎市議会議長 石田 康 博 様

多摩区

菅の町の安全を守る会

ほか 5,060名

J R 南武線稲田堤駅の踏切（観光道踏切）の早期危険解消を求める請願

請 願 の 要 旨

- 1 駅利用者、踏切横断者の増加による危険増加からの通学路の安全対策並びに橋上駅舎事業に必要な用地取得に伴う地権者への丁寧な移転補償により、早急な駅整備事業の実現を求めます。
- 2 整備事業完成までの安全対策として、南側に暫定改札口を設置し、危険軽減による安全対策を求めます。

請 願 の 理 由

J R 南武線稲田堤駅の混雑緩和と踏切事故防止のため、臨時改札口を求める請願が平成14年11月に5,244名の署名とともに提出され全会一致で趣旨採択、それらの経過の中、平成22年2月、J R 東日本との協議の結果、橋上駅舎化が決定し、平成26年3月に地元説明会が実施されました。同年4月には駅舎の外観の色彩等に関する住民投票も実施され平成29年度末に工事完成、供用開始との説明を受けました。地域住民は橋上駅舎決定事業開始への期待が高まり、橋上駅舎完成時の発車メロディ導入の要望も3,237名の署名とともに提出しました。

危険が増すJ R 稲田堤駅の踏切は、「危険！1時間に100人が強行突破！開かずの踏切の謎」と題してT B S の朝のニュースで放送され「国土交通省が指定する『緊急に対策の検討が必要な踏切』であり、過去に2人ほど踏切事故で亡

くなっている」との報道内容でした。

橋上駅舎事業が発表された平成26年の駅利用者は49,762人、平成27年は51,286人と年々利用者が増加し、観光道踏切の危険は増す一方です。重大事故が発生するのではないかと、心配と不安が増す日々です。J R 稲田堤駅整備事業について平成26年3月に実施された地元説明会での内容のとおり、平成29年度末の1日も早い完成を切望しています。

J R 稲田堤駅の踏切（観光道踏切）は菅小学校の通学路です。子どもたちの命を守る通学路の安全対策は喫緊の課題です。早期対策を求めます。

この橋上駅舎整備事業の説明では、必要な用地取得と移転補償の内容が出されました。これらの当事者の方々の理解が得られなければ実現できない事業です。最重要内容として移転後の生活や事業の移転補償も丁寧にそして柔軟に取り組まれるよう求めます。

これらの種々の課題もあり、駅整備事業の完成には、まだ数年は要するとのこと。完成までの安全対策のため、駅南側の用地を使用して暫定改札口を設置し、危険対策を実施するよう切望します。

紹介議員

松 原 成 文
河 野 ゆかり
露 木 明 美
井 口 真 美
月 本 琢 也
添 田 勝
渡 辺 あつ子
小 田 理恵子